

所沢市東地区総合型地域スポーツクラブ設立計画についての研究

A study about the plan to establish a comprehensive sport club in the east district of Tokorozawa city

1K06B208

指導教員 主査 原田宗彦先生

三澤 修司

副査 作野誠一先生

1、緒言

近年の都市化や少子高齢化、子どもの体力低下などの社会問題を背景に、自由時間における身体活動や健康、体力づくりへの関心が高まっている。わが国では、2000年に「スポーツ振興基本計画」を策定し、多種目・多世代・多様な技能レベルへの対応を特徴とする総合型地域スポーツクラブの育成を柱とする、生涯スポーツ社会の実現に向けた取り組みをスタートさせた。筆者の地元である埼玉県所沢市でも官学連携のもと、2000年に「所沢市西地区総合型地域スポーツクラブ(WASEDA Club2000)」が設立され、市内西部におけるスポーツ振興に貢献してきた。一方の市内東部では公共施設数が少ないためスポーツイベントが行われることは少なく、西部に比べスポーツ振興は進んでいないようである。市が2006年に策定した「所沢市スポーツ振興計画」の中で、市内東地区総合型地域スポーツクラブの設立・育成が施策として挙げられているものの、今のところ実現していない。筆者はスポーツ振興が遅れている東部における総合型地域スポーツクラブの設立は、市が目指す市内生涯スポーツ社会の現実に欠かすことのできない重要施策だと考え、東地区総合型地域スポーツクラブ設立計画の現状と課題について調べてみることにした。

2、研究目的及び研究方法

本研究は、「所沢市スポーツ振興計画」中に記載のある、埼玉県所沢市の東地区総合型地域スポーツクラブ設立計画について、その現状の把握を行い、課題を明らかにするとともに、今後の取り組みについて提言することを研究目的とした。また本研究では、研究方法としてインターネットによる資料収集と文献調査、そして所沢市教育委員会教育総務部スポーツ振興課のA氏、松井小学校開放委員会とWASEDA Club2000の役員を兼任するB氏へのインタビュー調査を用いることとした。

3、研究結果

行政はWASEDA Club2000拡大案と新規クラブ創設案の2つの考えを持っているが、具体的な動きはないというのが現状だった。行政は早稲田大学の力に頼っているが、大学側の人材は西地区の活動で既に限界に近づいている。よって今後は早稲田大学以外の民間の人材をいかに活用していくかが課題となるだろう。市内東地区には体育指導委員やスポーツ少年団の人材、校区内の総合型クラブ化も視野に活動している松井小学校開放委員会といった民間組織が存在し、このような民間の力を活用していくことが今後の取り組みのポイントになると思われる。

4、結論

所沢市は総合型地域スポーツクラブに関して早稲田大学の力に頼りすぎている傾向がある。現状では早稲田大学は西地区のスポーツ資源であり、東地区をカバーできるほどの力は有していない。東地区の総合型地域スポーツクラブづくりにおいて、行政はリーダーや指導者といった直接的な人材を既存の民間の組織や人材の中に求めるべきであり、早稲田大学は行政と民間の取り組みに対して助言を行うアドバイザーとしての役割を担い、クラブづくりに間接的な関わりを持っていくべきであろう。それが結果として地域の特性を生かした、存続可能なクラブの誕生につながっていくと思われる。これまでの官学連携に民間が加わり、官学民が連携し三位一体となって計画をすすめていくことが今後所沢市には必要である。